

見通し

あっ、ボール転がった

社会福祉法人堺暁福祉会 きらり保育園（兵庫県神戸市） [1歳児]

<事前の様子> ボールを棚の上に置こうとした時、偶然溝にはまり転がり出す。その様子を見て「あっ！」と転がることを発見したA児は、夢中になって何度も繰り返しボールを転がす(試す)。B児は別の遊びをしながらも、少し離れた所でA児の様子をうかがい、楽しそうなことがわかると自分もボールを持ってきて隣で同じように遊び始める。



| | 子どもの様子 | 援助 |
|-----------------|---|---|
| 穴に落ちる 不思議・探索 | <ul style="list-style-type: none"> A児はボール転がしの仕掛けに気付き、躊躇することなく穴にボールを入れる。しかし自分の立っている所にはボールは出てこない(段ボールの中の筒を通して反対側に出る仕掛け)。「なんでだろう?」と不思議そうに穴を覗き込み、ボールがどこに行ったのかを確認する。その時、他の穴からボールが転がってくる。 A児は誰がボールを入れたのか急いで顔を上げ確認する。反対側に保護者が立っていることに気が付く。(参観日のため保護者がいる) 続けて保護者にボールを入れてもらい、どの穴から出てくるのかを確認する。出てきたボールを手に取り嬉しそうな表情を浮かべる。 その後も同じ穴から何度かボールを入れてもらい試した後、他の穴はどこからボールが出てくるのか試す。 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもが興味をもって繰り返し試していることを踏まえ、ペットボトルなどを使い、試したり発見したりできる様々な仕掛けを用意する。 遊びの楽しさを保護者や友達と共感できるようにする。 |
| 転がらない 不思議・探索 | <p>(1ヶ月後)</p> <ul style="list-style-type: none"> A児が車の玩具を手で勢いをつけて押し出して遊んでいる。 保育者と同じように、テープの芯を転がし始める。 保育者の言葉を聞き、ままごとの遊具の中からポットを選び、持ってきて転がす。 注ぎ口が邪魔になり転がらないことに気付くと、すぐにままごとのコーナーに戻り、次はお皿を持って転がし始める。 なかなかバランスが取れずうまく転がらない。 すると次はコップ、メロンと次々にいろいろな物を転がし始める(試す)。初めは丸い物を選んで転がしていたが、ニンジンやおにぎりなど違う形の物も試し、探索を始める。 | <ul style="list-style-type: none"> 丸いテープの芯に布を貼り付けた玩具を転がす。 「他にも転がる物あるかな?」とA児に問いかける。 |



考察

- 道具を使って遊べるようになり、いろいろな物による転がり方の違いを確かめるかのように、何度も繰り返して同じ遊びを楽しみ、試す活動が盛んに見られるようになる。A児は、「やってみたらうまくいった」ことが同じように何度もできることを経験することで、「次もきっとこうなる」という子どもなりの見通し(予想)ができ試している。そして、予想通りになれば、さらに達成感や喜びが育まれていくと考えられる。
- 「穴に落ちる不思議」と「成功体験の積み重ね」により、自分の予想と違う場面に遭遇してもすぐに諦めないで試してみる気持ちが育ち始めている。保育者が期待して意図的な環境に、子どもが会うきっかけを作ったところ、最初はボールの入り口と出口の関係性に気付かず、不思議そうな顔をしていたが、何度もボールの動きを見ることによって、関係性を自分なりに獲得しようとする様子が見られた。
- 「転がらない不思議」では、保育者の「他にも転がる物あるかな?」という問いかけに対して自ら考えながらポットや皿、コップなどを選んで試している。そこから、「丸い=転がる」という関係性を漠然とではあるがつかんでいると予想される。これをもとに「これならできるかな?」と、様々な物を試したり切り替えたり選んだりする力も育ち始めている。

ポイント

1歳児が丸い物が動くことに興味をもち、転がり方や動きの違いを楽しむだけでなく、動きを予想して遊んでいる様子が伝わってきます。また、周囲の人のやっていることにも興味をもち、刺激を受けてまねるだけでなく、自分なりに気付いた面白さや情報を取り入れて遊んでいます。こうして1歳児なりに感じた不思議さに興味をもち、獲得した知識や知恵を働かせて意欲的に遊ぶ体験により、「科学する心」の育ちが期待できます。